

今回の大会を総括する前に、ユニバーシアードについて述べておこう。

ユニバーシアードとは、国際大学スポーツ連盟（F I S U）がオリンピック年の前年と翌年の2年おきに行う学生のオリンピックである。これとは別に、ユニバーシアードの競技でないスポーツについて偶数年に学生の為の世界大会がやはりF I S U主催で行われる。オリエンテーリングの場合は後者で正確には世界大学選手権という。

特徴としては、表彰式で流されるのは国歌ではなく、F I S U賛歌（だから愉快地やろう）が流れること、学生対象の為か参加費が世界選手権に比べ安く抑えられている事である。（F I S Uからの補助が大きいと思われる）。

世界選手権と比較すると、競技のコントロールとしては若干ゆるく、シビアさに欠ける部分もある。また学生大会という事で交流の場という側面も大きい。いずれにしてもオリンピック（世界選手権）の登竜門的な大会であり、この大会でのメダリストがのちのオリンピック（世界選手権）のメダリストになる可能性も高い。

従って参加者は強国では世界選手権を目指して日常努力しているけれどもトップチームに入るには力が足りない選手ということになるが、中堅国以下では世界選手権のメンバーがそのまま参加することもある。

しかるに、学生の中に将来の世界選手権で活躍しようといった目標を持ってトレーニングしている選手が非常に少ない（学生じゃなくてもですが）日本においてチームの成績を云々いうことはあまり意味がない。海外で走れるチャンスだから、たまたまセクションに通ったからでは歯が立たないのあたりまえである。セクションに通ってから2・3か月でうまくなるようなスポーツはどこにもない。

今回代表チームのコーチングを行うに当たっては、選手にこの大会に臨む心構えを聞くことからはじめた。良い成績を残そうというのが無理である以上、セクションを通ったご褒美的に走るのか？今後強くなっていくための経験としてとらえるのか？前者ならば交流を目的に楽しんで来ればいいし、後者ならば、まず自分の位置を知る大会としなければいけない。

いずれにしろ楽しく大会期間中を過ごすにはある程度のことはできなくてははいけない。オリエンテーリングの指導法が確立していない現状の中それぞれ経験でうまくなってきた選手達なので、国内練習では基礎の基礎を確認することを行った。強調したのはナビゲーションの基本である地図の持ち方と正置であった。（もちろんそれだけでは飽きてしまうため、他のメニューもおこなったことで繰り返しというほどはできなかったが）

現地では、できることをやるという事を目的に体調の管理を優先した。現地のトレインにたくさん入って慣れるという方式は取らなかった。モデルと、パブリックレース以外では速く到着した組が2か所、遅く到着した組は1か所入ったにとどまった。

結果は表を見てもらおう。男子については日本でトップ選手と渡り合っている結城は別として森オリエンテーリングではトップ比150までならまあ実力をだせたと思っていい。逆に180%を越えれば実力を出せていない。女子は国内トップとの差が大きいので17

0%までならOK、200%では実力を出せていない。男子で130%、女子で140%台なら上出来。街スプリントでは男子は110%台、女子は130%台が合格点。(今回は地図の出来も今一つで荒れてしまったので若干遅くなるのはやむを得ないが)

寺田は、国内での基礎練習への参加ができなかった。大河内は心理的なコントロールを失って最後まで戻せなかったために実力を出せなかったが、あとはますますだろう。(ミドル・リレーのトレインはこれといって大きな特徴物がなく、技術に自信を持って走れる選手でないと難しいトレインであったので苦戦はしていたが。) レース中に他国の選手と一緒に走る機会をもった選手も多かった。単に外人は走るのが速いという感想をもって帰るだけでなく、その選手の後ろで地図を読みながら走ることができたと感じてもらえたなら、基礎練習は無駄でなかったということだ。あとは一人でも同じスピードのなかで判断できるだけの力をつけていくことが目標となるであろう。

中でも、個人3レースで安定して走った(国内の成績よりも相対的に良かった)山本はいい経験にできたのではないかなと思う。基礎を短期間で叩き込むのには、国内でいい成績をこれまであまり出していない選手の方がいいのかもしれないとも思う。下手に日本で(のいい加減なオリエンテーリングでの)の成功経験があるとレース中に容易にもとのラフなオリエンテーリングに戻って致命的なミスをしてしまうのだろう。だから基礎をやるには早いほうが良い。

今後世界学生選手権大会での成績の改善を期待するなら、まずは学連として初心者(1年生)への基礎動作の指導方法を確立して、どの大学でも最低これだけは教えているというような環境をつくる必要があるだろう。

バンケットを含めて、交流の面ではかなり活躍してくれた。これが上手でないことで、才能があっても日本人は十分に情報を活用できないため伸びていかない傾向にある。せっかく仲良くなったのだからこれをきっかけに情報交換したり、まだ別のステージであったりとさらに深く交流して、学連、そして日本のオリエンテーリング界に貢献してもらえればいいなと思う。